

登録コード	E2906400	開講年度	2026				
授業科目	英語学特殊演習Ⅲ					担当教員	酒井 英樹
英文授業名	Advanced Seminar in English Linguistics III					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・6時限	対象学生	
講義室	教育N 2 0 3 講義室		授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	第二言語習得及び応用言語学に関する諸概念や理論を理解し、教師として必要な教養を身に付けるようにする。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	第二言語習得及び応用言語学に関する諸概念や理論を活用して授業を構築できるという英語の指導力を向上するようにする。	
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本演習では、第二言語習得及び応用言語学に関する文献を購読し、関連する諸概念や理論を解説する。						
(5)授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：コミュニケーション能力 第3回：第二言語習得論（理論） 第4回：第二言語習得論（個人差要因） 第5回：英語の音声 第6回：英語の文字 第7回：英語の発音と綴りの関係 第8回：英語の書き方 第9回：日本語のローマ字表記 第10回：英語の語彙 第11回：英語の文法 第12回：相互作用の中で生じる発話の意味と働き 第13回：現代社会における英語 第14回：定期試験及び授業アンケート ※教育実習による欠席の補講については、授業記録の視聴及びレポートにより対応する。						
(6)成績評価の方法	・ 第二言語習得及び応用言語学の諸概念を理解しているかをみる最終試験（50%）と、説明できることができるようになっていくかをみる最終レポート（50%） ・ 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	「卓越している」：第二言語習得理論に関わる概念や理論を正確に英語で説明できる。 「かなり上である」：第二言語習得理論に関わる概念や理論をほぼ正確に英語で説明できる。 「やや上にある」：第二言語習得理論に関わる概念や理論を適切に英語で説明できるものがある。 「水準にある」：第二言語習得理論に関わる概念や理論を英語で説明できるものがある。						
(8)事前事後学習の内容	・ 教科書をあらかじめ読んで理解をしておくこと。 ・ 事後学習として、用語辞典で意味を確認しておくこと。 ・ 教科書のプレゼンテーション準備をすること。 ・ この授業は 90 時間の学修を必要とする内容です。従って、60 時間以上の時間外学習が必要となります。						
(9)履修上の注意	・ 英語で授業を進める場合がある。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	・ 随時、質問、相談に対応します。アポイントは、メールで受け付けます（sakaih@shinshu-u.ac.jp）。						
【教科書】	・ 酒井英樹・滝沢雄一・亘理陽一. (2017). 『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ』三省堂. 2,090円						
【参考文献】	随時授業中紹介する。						